

プラスファ通信



テーマ 2020年を読む！

新年あけましておめでとうございます！
本年も横溝会計をよろしくお願いいたします！

さて、令和2年となる2020年が始まりました。今年はどんな年になるか色々と年末年始に考えてみましたので皆様にも共有させていただこうと思います。オリンピックイヤーとなる2020年。個人消費を含め色々と期待したい年となりますが、かたや米中の貿易戦争はまだ不透明ですし、消費税増税の影響もこれからどうなってくるかまだ予断を許しません。中小企業の足元を見ても、相変わらずの人材難の課題も変わらずです。

色々と考えなくてはならないことは山積みですが、今回は2020年に大きく影響を及ぼしそうな4つのテーマについて考えてみます。

(1) 事業承継・M&A

この数年間での中小企業のM&Aの件数は、私の肌感からしてもかなり活発化しています。実際に去年は、弊社も何件かのM&A案件に絡むことになり色々と感じるものがありました。近年、事業承継対策の1つとして、「創業型事業承継」という取り組みが注目されていると言います。既存事業をそのまま存続させるのは難しい。しかし、すでにある顧客基盤や人材、技術ノウハウ・設備・資金といった経営資源には活用の余地がある。そういった場合にこれらを承継した上で、顧客ニーズに合わせ事業やビジネスモデルを転換したり、既存事業から得られる資金をもとに新たな事業を立ち上げる、といった発想だそう。面白い切り口と思います。

(2) モノの価値

20世紀後半までは、私たちの日常生活には多くの「不満・不便・不安」が存在し、それらの課題を解決することで大きなヒットを生み出してきました。3種の神器もその代表ですね。今はどうでしょう？私たちの日常生活において大きな不満等はあまり見られません。この意味で、「課題を解決する力」は以前と比べ著しく価値を失っています。

その影響もあり、今までは想像もつかなかったような画期的なものではなく、現在は「かゆいところに手が届く」ような細かい箇所にサービスを行き届かせるサービス・商品に価値が求められています。サブスクリプションに代表される「所有価値」から「使用価値」への移行もこの1つでしょう。高いコストをかけて所有するのではなく、必要な時に必要な分だけ使用するという発想は今後も続くでしょう。

(3) 採用・人材

中小企業では2021年4月より「同一労働同一賃金」制度が導入され、その後は正規と非正規社員の待遇に差がある場合、その内容や理由について合理的な説明が求められます。対応ができる企業に人材が集まっていくことが明白です。2020年のうちから対応を考える必要がありますね。

また、70歳までの雇用の努力義務が定められた関連法案も施行されそうです。当面は努力義務ですのであまり気にする必要はないですが、これからの日本の雇用環境を考えた場合、シニアの雇用は必須となってきます。このあたりを見据えた人事施策を考える年としてもいいかもしれません。

(4) AI

AIについては今年に始まる話ではないですが、今年もさらに加速的にヒトの代わりにコンピュータやロボットが仕事をする場面が増えてきそうです。

2020年度から全ての小学校でプログラミング教育が必修化されます。私も「小学生がプログラミング!？」と勘違いしていたのですが、この導入目的は「プログラミング的思考」を育むことのようにです。これは、自分が意図する一連の活動を実現するためには、どのような動きの組み合わせが必要であり、1つ1つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのかということ論理的に考えていく力のこと。なるほど、とても重要ですね。触発されて、6歳の子供が買ってもらった「ころがスイッチドラえもん(バンダイ)」がプログラミングを学べるおもちゃでしたので、一緒にやってみたとこ、ひじょーーーーに奥深いですね！